新　規

化学・生物総合管理の再教育講座（講義内容）

前　期

科目No.	407	科目名	リスク学特論3		サブネーム	社会を変革する労働科学の歴史と今後の展開	
連携機関	労働科学研究所	レベル	基礎	講義日時	火曜日　18:30～20:00	講義場所	お茶の水女子大学
科目概要	開設以来今日に至るまで86年間、現場に密着した調査デザインとデータを基盤とする研究方法、複数分野の研究者による学際的研究、問題解決を目指す対策指向型の研究と実践を特徴とする労働科学の火を燃やしつづけ、安全、健康、快適で生産性が高くかつやりがいのある仕事と職場づくりに貢献してきた労働科学研究所の歴史を検証しつつ、時どきの時代状況を読み解きながら進められてきた研究と実践の成果と課題を具体的に紹介するとともに、社会を変革する労働科学の展開について検討していく。					

サブタイトル	No.	講義名	講　義　概　要	講義日	教室	講師名	所属
労働科学の歴史と社会変革	1	大原孫三郎と倉敷労働科学研究所	労働科学研究所は、1921（大正10）年に倉敷紡績社長大原孫三郎によって、万寿工場敷地内の寄宿舎に隣接して建設された。時代状況を読み解きながら、労働科学研究所誕生の必要性と活動の特徴、成果などを検証する。	4月15日	共通講義棟1号館205	酒井一博	労働科学研究所
	2	暉峻義等と労働科学―戦前の労働科学―	初期の労働科学研究所では、暉峻義等、桐原葆見、石川知福らの強い指導によって研究所の外に出て現場を踏まえた精力的な研究活動が推進された。その一例を「郵便事務能率に関する研究」「海女の潜水に関する研究」「労研饅頭」などについて紹介する。	4月22日		佐々木司	
	3	戦後復興期の労働科学	戦後の復興期には研究所の維持さえも苦難の連続であったが、「じん肺の研究」「農民の早老に関する研究」「最低賃金の研究」「交代勤務制の研究」をはじめ、次々と研究成果をあげていった状況を紹介する。	5月13日		赤堀正成	
	4	戦後技術革新による労働環境の変容と労働科学	驚異的な経済復興を遂げ、優れた技術革新が次々と開発された半面、たくさんの労働災害や職業病、さらには公害病などが顕在化した。戦後の技術革新による光と影を労働科学の視点から検証する。	5月20日		村田　克	
産業別の取り組み	5	ものづくりの安全衛生―設計と生産技術と安全衛生の融合―	技術立国日本の屋台骨を担ったものづくりの場（製造現場）における労働者の安全衛生と現場改善について、腰痛など筋骨格系障害の例を取り上げながら俯瞰する。	5月27日		松田文子 小山秀紀	
	6	オフィスワークの変貌と産業安全保健―ITの光と影―	PC（パーソナルコンピューター）の登場によってわれわれの労働と生活は大きな変貌を遂げた。ここでは1980年初頭からの4半世紀のオフィスワークをとりあげて、職場環境の変化を労働科学の視点から俯瞰し、成果と課題を示す。	6月3日		北島洋樹	
	7	医療の場における安全と保健―ヒューマンケアワーク研究の体系化―	医師、看護師などの医療関係者が従事する保健医療産業をとりあげて、成長するサービス産業における産業安全保健活動の困難さと、ブレイクスルーのための研究戦略、社会の課題について整理する。	6月10日		吉川　徹	
	8	アジアにおける産業安全保健の歴史と課題	戦前の満州分室における労働科学研究、1950年代の第1回アジア労働衛生会議とその後の発展、労働科学研究所等を通じたアジアにおける労働安全衛生研究の動向と課題について概説する。	6月17日		吉川徹 長須美和子	
国際協力	9	参加型アプローチによる産業安全保健活動	ILOが推進しているワイズ(WISE)、ウインド(WIND)や日本の技術協力で進められているポジティブ(POSITIVE)などの対策指向型職場改善プログラムについて紹介し、産業安全保健領域における参加型アプローチの役割と成果を考察する。	6月24日		吉川徹 長須美和子	
	10	過労運転に伴う安全リスクと予防に向けた取り組み	経済活動の基盤を支える物流産業で働くトラック運転者の労働と睡眠の有様から過労運転の実態を検証しつつ、見えてくる産業の構造の変革について考える。	7月1日		鈴木一弥	
視点と方法	11	産業安全研究のブレークスルー―組織安全の取り組みの到達点―	産業事故や企業の不祥事が絶えない。ヒューマンファクターの視点から長年にわたって展開してきた産業安全研究を検証しながら、組織安全に関する取り組みの到達点を示す。	7月8日		細田聡 余村朋樹	
	12	労働時間・交代勤務改善へ向けた労働科学研究の到達点	労働時間や勤務制は働き方の基本である。産業現場での実態調査や介入調査、さらには実験的な手法により蓄積したデータにもとづき、労働時間の短縮や交代制の改善提案をつづけてきた成果と課題を俯瞰する。	7月15日		松元　俊	
	13	人間工学による職場改善	人間工学の活用による職場改善の実践法を示す。グループワーク、作業改善チェックリスト、グッドプラクティスの水平展開などの実践手法の紹介を通じて、人間工学の有効性について共有する。	7月22日		鈴木一弥	
	14	産業疲労・ストレス研究の到達点―ワーク・ライフ・バランスの条件と課題―	成熟した産業社会における日本人の働き方と安全保健の現状について考察する。労働科学の視点から過重労働を解き明かし、ワーク・ライフ・バランスの条件と課題を提案する。	7月29日		鈴木安名	
全体討論	15	ワークショップ：社会を変革する労働科学の展開	「社会を変革する労働科学の将来の展開」を受講者の参加を得てワークショップ形式によって総括する。社会状況を読み解きながら、労働科学研究の方向性と実践活動のあり方について、この分野での人材育成も含め多面的な検討を試みる。	8月5日		北島洋樹 吉川徹 赤堀正成	

2008/3/12講義No.2（4月22日）及び講義No.12（7月15日）担当講師の変更及び教室の記載。2008/3/14講義No.8（6月17日）講義No.9（6月24日）講義No.10（7月1日）の入替え。2008/4/1講義No.2（4月22日）及び講義No.12（7月15日）担当講師の再変更。2008/7/9講義No.12（7月15日）担当講師の変更。2008/7/11 講義No.12（7月15日）講師の変更。